

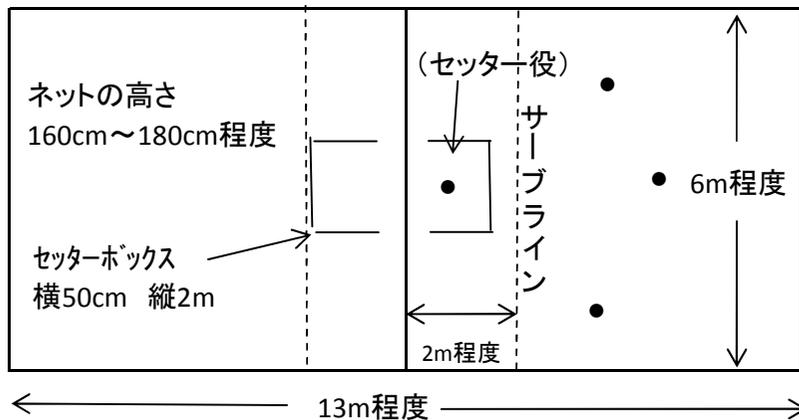
チームの連携プレーができるゲーム（高学年）

セットバレー

○教材の特長

- ・高学年のネット型のゲームは、「連携プレーによる攻撃」ができるように工夫していく必要があります。
- ・そこで、「セットバレー」では、連携プレーによる攻撃（3段攻撃）ができるように、1人目（レシーブ役）がはじいたボールを、2人目（セッター役）がキャッチしてセッターボックスに走って移動し、打ちやすい所にトスをあげる（投げる）ようにルールを工夫しています。

○コート図



レシーブする。



セッター役が「セット」とコールして、キャッチする。



走ってセッターボックスに移動する。



アタックする。



打ちやすいところに、ボールを投げ上げる。



○準備物

- ・ボールは、ソフトバレーボール（50～100g）などを使うとよいでしょう。（主としてキャッチする場合は重い目、はじく場合は軽い目のボールを選択していきましょう。）
- ・コートは、横10m 縦5mを目安にしましょう。（バドミントンコートを使うとよいでしょう。）
- ・ネットの高さは、160cm～170cmを目安にしましょう。
- ・得点板、ラインテープ など

<サーブ>



相手が受けやすいボールを、下から両手で投げ入れます。

○ルール

- ・4人対4人でゲームを行います。
- ・セッターボックス(セッター位置)をネット際に作ります。
- ・「キャッチ」できるのは、セッター役の1回だけにします。
- ・セッターボックス(セッター位置)をコート図のように作ります。
- ・セッターボックスの中にいる者(セッター役)が、1人目(レシーブ役)がはじいた(レシーブした)ボールを「セット」とコールして受け、セッターボックスに移動し、3人目(アタッカー役)が打ちやすい所にトスをあげる(投げる)ようにします。
- ・サーブは、サーブラインより後ろに位置し、相手が受けやすいボールを下から両手で投げ入れて行います。
- ・得点したチームのサーブで始めます。また、ラリーポイント制でゲームを進めていきましょう。
例) はじめの段階では、10点先取で勝ち! →慣れてきた段階では、15点先取で勝ち!
または、時間制にして、5~7分を目安に得点の多い方が勝ち!



<アンダーハンドパス>

- ・手の平を広げ、上に向けて(顔を洗う要領)



<オーバーハンドパス>

- ・顔の上で(両手の親指・人差し指で)三角形を作り、その間からボールを見る

○指導上のポイント

- ・2回目にボールを受ける人の動きが大切(組み立てる)になります。ボールのもらい方は、ネットを背に動くように指導しましょう。
- ・2回目(セッター役)、3回目(アタッカー役)の動き方の工夫がチームの作戦になります。
例)はやい攻撃, おとり攻撃, ひとり時間差攻撃 など 中学年で学習したことを生かしていくように声をかけていきましょう。
- ※2回目にボールをキャッチする人をセッター役、3回目にボールをはじく人をアタッカー役としますが、セッター役だけはあらかじめ決めておくと、スムーズにゲームを進めていくことができます。
- ・はじめの段階では、ひとつのプレイが終了するごとに、ローテーションしてゲームを進めるといろいろなポジションでの役割を学習することができます。5人の場合は、一人ぬけてローテーションするとよいでしょう。
- ・3段攻撃につながるようにボールを持っていない子どもの動きを高めるようにしていきましょう。そのためには、常にボールの方向に体を向け、ボールの落下地点に素早く移動できるように指導していきましょう。また、「1, 2, 3」と声をかけながらボールをつなぐように指導していくことも大切です。
- ・はじめの段階でボールがうまくつながらない場合は、サーブのボールだけは「ワンバウンド」してレシーブしてもよいとするなど、子どもの実態に合わせてルールを工夫していくとよいでしょう。その場合、単元後半では「ワンバウンドルール」などをなくすようにしていき、中学校でのバレーボールにつなげていきましょう。
- ・判定や得点は、審判チームをつくり審判をしたり、得点を数えたりする役割を与えていくとよいでしょう。審判チームをつくれないう場合はセルフジャッジとし、判定に迷った場合は両チームのじゃんけんによって決めてもよいでしょう。